

## 令和3年度校内研究

### ○成果

- ・読む領域を研究するにあたり、辞書引き学習に取り組んだことは有効であった。  
辞書を引く楽しみや言葉を知ることにより意欲的に取り組めた。辞書を引く習慣が身についた。  
語彙に関する意欲付けや、語彙力の向上に寄与するができた。各学年の実態に応じて、基礎的な辞書引き学習のスタイルを継承しつつ、新たな学習スタイルを模索することができた。
- ・大事な言葉にアンダーラインを引くなどの活動を通し、新聞や物語などの内容を理解することにつながった。
- ・区・都と国の学力調査の分析をすることで自校の課題が明確になり、課題に即した手立てを中心とした研究を進めることができた。
- ・児童の意識と教員の意識のずれを分析から知ることができた。
- ・児童の語彙力の向上を目指す指導の在り方に関して、「辞書引き指導」やN I E等の外部の企業や団体等を招いて校内研修を行い、教職員が研鑽を積むことができた。

### ○課題

- ・区・都と国の学力調査の分析の方法を全教職員が理解して行い、分かった課題を全教職員で共有し、より実践的に日々の授業改善に生かすことをさらにしていく必要がある。
- ・取り組んだことの変容をデータとしてとることができなかった。実践前と実践後を客観的にみられる資料を作成していきたい。
- ・発達段階に応じた、主体性を育み、個に応じた学びの家庭学習を工夫する。
- ・学び方を振り返る活動を重視し、学びに向かう力を充実させる。
- ・児童の変容をみとめるためのアンケート実施を計画したが、3学期まで実施することが出来なかった。児童の意欲・関心をつかむためにも、実施を次年度は行いたい。



